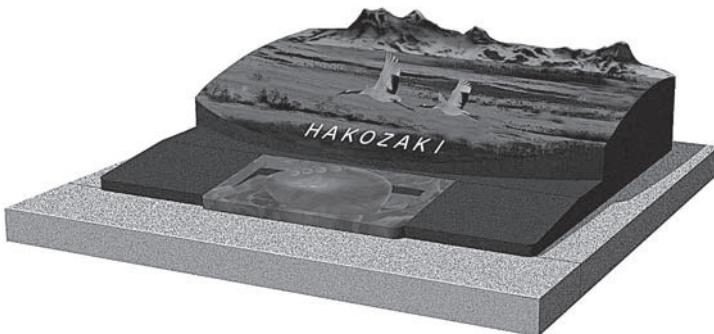


業界初となる「ジオラマ墓石」が誕生！ 釧路湿原の後方に連なる阿寒岳を忠実に

(株)サン・ポウ（群馬県沼田市）

「業界初のジオラマ墓石」として完成した箱崎家の墓石



MICSの設計図をベースに写真を貼り付けた完成イメージ図

雄大な釧路湿原の後方になだらかな稜線を描く阿寒岳を、あたかも自分がタンチヨウ鶴になった気分で上空から眺めるように立体的に表現した業界初の「ジオラマ墓石」が誕生した。製作したのは(株)サン・ポウ（本社：群馬県沼田市、平井秀明社長）。北海道北広島市在住の施主とメール等で連絡を取りながら、構想段階から約十ヵ月掛けて完成させたものだ。

施主は昨年二月に父親を亡くした、札幌市の高校教師、箱崎陽一さん。同年、群馬県に訪れた際に「そろそろ墓石を考えなくては…」と何気なく同社を訪ねたことがきっかけ。その時対応したのが吉澤伸二副社長だった。その後、同社は墓石のデザインを決める際の参考資料として、彫刻家がデザインしたものやモニュメント



ジオラマ墓石を提案した吉澤副社長
左=自宅でジオラマ模型を作成する箱崎家の皆さん。何とも楽しそうな雰囲気だ

風の墓石など様々な事例が掲載されたパンフレットを送付した上で、それらの資料を基に、お墓づくりに対する箱崎さんの様々な思いを文章にまとめてもらつた。その内容は以下の通りであった。



箱崎さんの実家の窓から見える景色に番いのタンチョウを貼り付けた合成写真

⑤（日本人としての誇り）
作るお墓は宗教の違いや信仰の有無に関係なく誰でも入れるものにしてみたいという思があること。

一の大きさで作ることを前提として、阿寒岳周

①両親は実家の窓から見える釧路湿原や阿寒岳（正確には雄阿寒岳と雌阿寒岳）の景色が好きだったこと。
②父の生家の牧草地にタンチョウが営巣するようになつたこと。

③箱崎さんが進学で釧路を離れる時、番いのタンチョウが自分の乗る

列車と並行に飛びながら見送ってくれたこと。

④本来なら人々に平和を与えてくれるはずの宗教が原因となって、世界中で静いや戦争が起きていることに対する失望感があり、自分の

もあるが）地球人でありたいという願いもあり、世界各国の石で作つてもらいたい。」
—というもので、さらに箱崎さんは自分のイメージする墓石を模型で制作し、それを写真に撮つて送つてくれた。その正面には、実家の窓から見える釧路湿原と阿寒岳をバックに悠然と飛行する番いのタンチョウが合成写真で貼りつけてあつた。

これをそのまま影彫りで制作することもできたが、「どうせなら阿寒岳を実物通りに縮小して再現するジオラマ墓石を作つてみませんか」と、吉澤副社長が提案したところ、箱崎さんは大変気に入り、賛同してくれた。阿寒岳をジオラマで制作して、その手前の釧路湿原とタンチョウを影彫りで表現するというものだ。価格は施工費込みで三百万円として見積もつた。

ただし、それを実現させるには、墓所の大きさ（間口一m×奥行き二m）に合わせて原寸大のジオラマ模型を作る必要があった。すると、理科の研究者でもある箱崎さんが制作してくれることになった。その方法は、約一万四千分の一の大きさで作ることを前提として、阿寒岳周

辺の地形を等高線の形に発泡スチロールをカットし、それを地形どおりに重ね合わせた後、石膏を使って山肌や周辺部を肉付けして再現するという本格的なもので、箱崎さんを中心として兄弟や家族らが一丸となって協力してくれた。また、花立ては箱崎さんの研究対象であるミトコンドリアをイメージしてブルーパールで作ることになった。

本体用の原石（インド黒）は一七〇〇×

一〇九〇×四二〇mmという大きさで約二tあるが、中国の石材工場では、阿寒岳の制作はこのジオラマ模型に基づいて石職人が手彫りで進めていった。中国での制作はリスクを考えて全体の七割に留めたが、それでも約一ヶ月余り要した。残り三割は日本到着後、細部の形状や寸法を再チェックした上で、彫刻家の下で最終仕上げをおこなった。

なお、墓石本体がインド黒のため、手彫りの

ジオラマ部分だけ白っぽくなり、研磨部分との調和がとれなくなるが、その部分にはイシノールシリーズの浸透性吸水防止剤「ウエットコート」（濡れ色仕上げ用）を塗布することで解決した。

建立場所は北広島市にある市営北広島霊園。施工は以前から同社と親交のある（株）溝口石材工業（本社＝岩見沢市、溝口裕信会長）が快く引き受けてくれた。JRコンテナで札幌まで輸送



本体の制作は原石を切削機でカットすることから始まった



本体は中国で7割まで制作した段階で出荷し、残り3割は国内工場で仕上げた。手前が一緒に返送されたジオラマ模型



基礎工事と据付けは（株）溝口石材工業がおこなった

した後、現場に運び込んで建立した。去る八月五日には納骨式がおこなわれたが、箱崎さんは「イメージ通りのものがでけてとても満足しています」と大変喜んでくれたという。

今回ジオラマ墓石を担当した吉澤副社長は次のように述べている。

「これだけ大きく複雑なジオラマ模型をプロの職人さんに作つてもううとなると相当の金額になりますが、今回はお客様の希望により宗教色を出さない墓石として制作しましたが、これは参拝者の宗派や信仰の有無を問わず、心理的な負担を減らせるという意味で一つのモデルケースになるとも考えています。当社としては今後、これらの経験を生かして新しい墓石の表現方法としてお客様に提案していきたい」ということだった。

いずれ同社の評判をどこからか聞きつけて、富士山やエベレスト、あるいはピラミッドなどをモチーフにしたジオラマ墓石の注文を受け付けることになるのは、もはや時間の問題かも知れない。

◎(株)サンポウ

群馬県沼田市屋形原町1407

TEL:0278-24-4114

URL:www.sanpo5.jp



完成した墓所の前で満足げに微笑む箱崎さんご夫妻

になりますが、今回はお客様が制作してくれたので何とか予算内で完成できました。しかし、すでに模型があるものや簡単なデザインであれば手頃な価格で模型が作れるので、別のデザインでジオラマ墓石を作ることもできるでしょう。また、今回はお客様の希望により宗教色を

出さない墓石として制作ましたが、これは参拝者の宗派や信仰の有無を問わず、心理的な負担を減らせるという意味で一つのモデルケースになるとも考えています。当社としては今後、これらの経験を生かして新しい墓石の表現方法としてお客様に提案していきたい」